

2021年度 事業報告書

(事業期間：2021年4月1日～2022年3月31日)

認定NPO法人大阪精神医療人権センター

第1 事業の概要

2021年度も、「精神医療および社会生活における精神障害者の人権を擁護する活動を行うとともに、それを通じて精神障害者に対する社会の理解を促進し、障害の有無にかかわらず、人間が安心して暮らせる社会に一步でも前進させるべく貢献すること」を目的として、①声をきく（個別相談活動）、②扉をひらく（訪問活動・情報公開）、③社会をかえる（政策提言）の3つの活動を行いました。

第2 「声をきく」活動の実施状況と成果

1 個別相談活動の実施

精神科に入院中の方やそのご家族等からの個別相談（電話相談・手紙・面会）を実施しました。

〈相談件数〉

	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度
1 手紙	444件	329件	200件	60件	33件	36件	30件
2 FAX	4件	7件	2件	1件	0件	2件	5件
3 メール	49件	105件	41件	14件	44件	4件	6件
4 電話	776件	830件	885件	1021件	854件	830件	679件
5 面会	24回 4病院	7回 4病院	179回 17病院	171回 19病院	102回 15病院	39回 12病院	27回 10病院
6 オンライン 面会	29回 5病院	7回 2病院					
合計	1326件	1285件	1307件	1267件	1033件	911件	747件

*別紙1 電話相談内容/別紙2 面会実施詳細状況

(1) 電話相談

毎週水曜日以外に他の曜日（月金土）に電話相談を行う場合は、留守番電話・入院中の方への手紙・ホームページ・フェイスブック等で事前告知を行いました。転送サービスやヘッドホンを導入し、2回線で相談を受けられる体制をつくりました。

【傾向と分析】

電話相談の件数は2020年度は830件あり、2021年度は776件に減少しました。これは留守番電話のアナウンス、手紙等で前もって電話相談の日時をお伝えすることにより、相談日以外にも複数回にわたってお電話をくださる方が減ったことや、テレホンカードをお送りすることで途中で電話が切れることなく相談ができるようになった方が増えていることも要因と思われます。

電話相談の件数は減少しましたが、依然として「電話しても繋がらない」という声も届いており、相談が集中する水曜日に2名体制で対応できるようにしたり、比較的繋がりやすい水曜日以外の相談日を案内するなど、引き続き相談していただきやすい環境づくりが必要です。

(2) 面会・オンライン面会

大阪府内の精神科に入院中の方を対象に、実地での面会・オンラインでの面会を行いました。オンライン面会は、①各病院が実施しているオンライン面会の手続きの中での実施、②研究事業（協力病院：榎坂病院・大阪さやま病院・久米田病院・七山病院・ねや川サナトリウム・浜寺病院）の一環としての2通りで実施しました（※研究事業：厚生労働行政推進調査事業補助金（障害者政策総合研究事業）「地域精神保健医療福祉体制の機能強化を推進する政策研究」精神障害者の意思決定及び意思表示支援に関する研究）。

【傾向と分析】

「面会に来てほしい」との連絡は2020年度は84件、2021年度は51件でした。2020年度は新型コロナウイルス感染症流行以前に行っていた面会が急に実施できなくなり、「面会に来てほしい」という連絡が多くありました。2021年度も以前面会に行っていた方との電話や手紙のやりとりは行っていますが、面会をあきらめたり、「面会に来てほしい」と言いにくくなった状況があるのかもしれない。

面会調整の連絡は2020年度は20件、2021年度は97件でした。弁護士の面会に同行したことや、6病院で研究事業によるオンライン面会が行えるようになったことをきっかけに、一部の病院では実地での面会が定期的に行えるようになってきています。

(3) 手紙・メール・FAX

【傾向と分析】

手紙による相談は2020年度は329件、2021年度は444件でした。「手紙がほしい」という連絡は2020年度は47件、2021年度は57件と新型コロナウイルス感染症流行前に比べるとさらに増加しました。これは面会に行けない代わりにということで、当センターから積極的に手紙を書いたり、電話相談のためにテレホンカードを送っていることが影響していると思われます。

2 電話相談の基盤整備と強化

(1) 「電話相談の手引き」の作成と研修の実施

プロジェクトチームが中心となり、電話相談受け手（相談員）の意見交換会を開催し、そこで出た意見、電話相談受け手の方からの聞き取り等をもとに「電話相談の手引き」を作成しました。出来上がった「手引き」をもとに、「電話相談受け手研修」を実施しました。オンラインで開催し、他の精神医療人権センターからもご参加いただきました。

手引き作成の思い ～電話相談の手引き「序にかえて」より～

知らない人に初めて電話をするときは誰でも緊張します。電話番号を押し始めても途中で切ってしまうこともあるかもしれません。お世話になっている看護師さんに知られないようにして退院の相談をしようというのであれば、なおさらでしょう。意を決して電話をかけたところ、相手の人が自分の話をとてもよく聞いてくれて、退院のことをいっしょになって考えてくれたとしたら、どうでしょうか。相談者の不安は解けてなくなるでしょう。次は実際にお会いして話をききましょうということになったとしたら、相談者はさらに希望をもつことができます。

大阪精神医療人権センターは、精神科病院に入院している方からの電話相談を受け、必要に応じて面会をし、相談内容の解決に向けた支援活動を行っています。電話相談は、精神科アドボケイトの活動のひとつであり、その後の面会活動のきっかけとなるととても大事な活動です。しかし、専門的な知識や経験がなければできないというものではありません。やっとの思いで電話を

してくれた入院者の置かれた状況を想像し、その言葉をよく聴き、その辛さや苦しさを共感し、問題解決のためにいっしょになって悩み考えていることを伝えられたらいいと思います。

本手引きは、電話相談を担当する皆さんが電話を受けるときに、ちょっとした知恵や心構えが得られるように作成されたものです。はじめて電話相談を担当してみようと思った方が安心して受話器を取って、オープンマインドで相談者の話を聴いてもらうことができましたら幸いです。

認定NPO法人大阪精神医療人権センター 代表理事 位田 浩

研修参加者より

今回のように（他センターと）合同でやること、デモプレイやロールプレイで他者の対応を見聞きし掘り下げること、いいなと思う点やこれはどうだろう？と感じる点など俯瞰して考えることができました。自分の受け方についても気づいたことをフィードバックいただけて新たな気づきになりました。他者の応答でいいなと感じたところは自身の電話対応にも取り入れたいと思います。

楽しく学べる研修でした。参加してよかったです。デモのお二人の演技がとても上手でリアルでした。グループワークの人数や時間配分もちょうどよかったです。

1年に1回、全国のセンターの電話相談担当者が集い、困りごとを話したり事例や情報の共有ができる機会があるといいなと思います。

（2）精神医療人権センター 一斉電話相談の実施

精神科病院に入院中の方の声をきき、精神医療人権センターと電話相談の認知度を高め、多くの方に精神医療の現状や問題点を共有することを目的として、神奈川・埼玉・東京・兵庫・大阪の精神医療人権センター共同で「一斉電話相談」を実施し、その後、各センターからご参加いただき、意見交換会を実施しました。

【実施内容】

日 時		実施した精神医療人権センター
2022年2月 2日(水)	11:00~16:00	埼玉・大阪・兵庫・神奈川・東京
2022年2月12日(土)	11:00~16:00	埼玉・大阪・兵庫
2022年2月22日(火)	11:00~16:00	埼玉・大阪・神奈川
2022年2月22日(火)	18:00~21:00	兵庫・東京

【寄せられた声】

相談は92件ありました。相談内容としては、現在、過去を問わず、もっとも多かったのが「入院に納得がいかない、退院・転院したい」が34件、次いで「退院支援・退院後の生活への不安」が22件、「入院生活（病気・治療・薬・他科受診・私物や金銭管理・食事・喫煙・使役・他の入院者）」が20件でした。

精神医療人権センターに初めて電話をしたという方が81%で、今回の企画の開催により全国の関連団体へのチラシ送付や新聞への掲載等により新たに精神医療人権センターを知ってくださった方が多くおられるようでした。また、精神医療人権センターのない都道府県からの電

話が39%、不明が10%とあり、中にはご自身の住んでいる地域に精神医療人権センターがあればいいのという声もありました。

電話相談意見交換会の感想より

■お話しをきくこと

今回、3名の方のお話を伺う中で、皆さんがいかに相談者さんのお話を聞くことを大切にしているかを知ることができました。普段は周りの人に本音を話せない状況にある人が、「ボランティア（病院の外の第三者）にしか話せない本音がある」という言葉や、「相手の話が妄想かもしれないと決めつけてしまうと壁ができて、話が聞けなくなってしまう可能性がある」ということ、そして「まず邪魔せずに話してもらうことが大事」という言葉など、心に残るものがたくさんありました。

■悩みながらも続ける理由

そして皆さんの中に、悩みながらも電話相談を続けているストーリーがありました。それぞれの背景は違いますが、同じ気持ちで電話相談に取り組んでいる仲間として、よい雰囲気の中でお話しすることができたと感じています。素敵な機会をいただき、私自身とても感謝しています。ありがとうございました。

濱田唯 精神保健福祉士／神奈川精神医療人権センター

意見交換会を終えて、主に感じたことは3点あります。

①「聴く」こと

電話相談において、相談者の言葉にできない苦しさや悔しさといった思いを受容し、言葉を紡いでいくスタンスが重要だと改めて感じました。電話を受ける人は具体的な対応に困難を感じることもありますが、私は入院中の方が安心して相談できる窓口であることが大切だと思いました。

②「つなぐ」こと

一度の電話相談で把握できることは限られています。しかし、継続して話を伺うなかで入院している方の力になれることが具体化していくのではないかと感じました。また次に「つなぐ」ことも重要であり、関わりの起点は電話相談ですが、そこから面会などの関わりへも広がっていくと思いました。

③「つながる」こと

閉鎖的な精神医療のなかで、入院中の方が自主的にアクセスできる数少ない窓口であることは言うまでもありません。電話相談というツールが入院している方々をエンパワメントする存在になり得ると感じました。さらに、電話相談を担う人たちもつながり、お互いの知恵を出し合っていくことにより、電話相談が成熟していくと思いました。またこのような場を持てるといいなと思いました。

戸田竜也 作業療法士／埼玉県精神医療人権センター

■ただひたすらきく

電話の向こうの声を、ただひたすらきこうとする姿勢は、相談活動にかかわる期間の長さに関わらず皆さんが大切に続けられてきたものだということが分かりました。それでも20年、35年と続く活動の重みは、ひとことでは表現できないとも感じました。

人権センターの個別相談活動というのは、ある人にとっては自分とは無関係の話に思え、ある人にとってはとてつもなく放っておけない話なのではないかとも感じました。これまで、声

をひたすらきいてこられた方々がおられることを実感しました。そして長くこういった活動を続ける人がいても、それでも放っておけないこと（精神医療の問題）は世の中から消えてくならない、だから自分としてもできることから取り組みたいという気持ちを再確認する時間となりました。

■身構えなくてよい

声をきかせていただくことにおいて、なにか大それたことをする、なにかを解決する、専門的なことをする、など、身構えるようなことは必要なく、相談の中で対話をしたり、繋がりを持つ、無理をしない、などがこの活動の基本だと再認識しました。

■意見を聞き合える機会

他センター、他地域で活動を続けておられる方々と出会えてうれしかったです。なによりも、さまざまな意見を聞き合える機会は、相談活動の更なる充実や向上に不可欠だと思いました。忘れそうになっていた大切なことをいくつも思い出しました。

佐名川紀子 家族／大阪精神医療人権センター

※日本財団助成事業

3 精神科アドボケイトの養成

(1) 精神科アドボケイト養成講座

これまでの当センターで実施してきた個別相談活動や個別相談活動参加者のための養成講座の開催経験をもとに、厚生労働省の研究事業（※）の一環として行われた精神科アドボケイトの養成講座の実施に協力しました（※厚生労働行政推進調査事業補助金（障害者政策総合研究事業）「地域精神保健医療福祉体制の機能強化を推進する政策研究」精神障害者の意思決定及び意思表示支援に関する研究）。

日時	2022年3月27日(日)9:30~17:30
開催方法	オンライン
参加者	29名（全国から申し込みが相次ぎ、受け付け開始から2日間で30名の定員が満席となり締め切りました。関心の高さがうかがわれました。）
参加対象者	精神科アドボケイトを学び、日ごろの活動や仕事に活かしたい方／大阪以外の地域で精神科アドボケイトの活動を行いたい方／大阪での精神科病院への面会活動に参加したい方
内容	各テーマについて、レクチャーとグループにわかれて演習を行いました。 1 アドボカシーとは 彼谷哲志（当センター個別相談検討チーム） 2 人権について 桐原尚之さん（全国「精神病」者集団） 3 入院している人の生活と環境 奥山 修さん（大阪精神医療センター看護部長・日本精神科看護協会） たにぐちまゆ（入院体験より・当センター理事） 4 精神保健の制度と現状 藤井千代さん（国立精神・神経医療研究センター） 西川健一（当センター個別相談検討チーム） 5 精神科アドボケイトとは（大阪での実践から） 藤原理枝（当センター理事）

(2) 事例検討会（オンライン）

面会活動参加者で面会活動を振り返ることにより、精神科アドボケイトの役割（できること・できないこと）を整理するために事例検討会を実施しました。

ファシリテーター 角野太一

参加者 面会活動参加者15名

	日時	内容
第1回	2021年7月15日(木) 7月24日(土) 13:00~15:00	これまでの活動の中で、「相談者（入院者）にとってこれでよかったのか?」、活動者自身が「これでよかったのか?」と思ったことを出し合い、「これ」が「だれにとっての疑問、不安なのか」について深めることにより、各事例から精神科アドボケイトの役割（できること・できないこと）の整理をしました。
第2回	2021年8月7日(土) 13:00~15:00	精神科アドボケイト利用経験者（退院した方）から入院時の体験や個別相談活動、退院後の今の暮らしについて話題提供を頂き、1回目の内容やそれぞれの面会活動の振り返りを行いました。

参加者の感想

- ・みなさん同じ様なことで悩まれているのだなと、気持ちの負担を共有できて軽くなりました。
- ・同じ立場の方々と意見交換ができたことは大きな収穫でした。
- ・他の面会に行く方が、どのようなことで困っているのか、どんなアプローチがありうるのかなどを聞いて、自分ならどうしたらどうかと考えるきっかけとなりました。
- ・面会活動の利用者（入院していた）の方のお話を伺える貴重な機会だと思い参加させていただきました。やはり当事者の方のお話は、言葉に力があり感銘を受けるものでした。「電話するには理由がある」「困りごとの被害者」「親身になって話を聞いてくれることが嬉しい」との言葉を忘れないようにしたいです。

第3 「扉をひらく」活動の内容

1 訪問活動の実施

(1) 療養環境サポーター活動

《病院への訪問活動》

新型コロナウイルス感染症の影響により2020年3月以降、この活動は停止しており、まだ再開の見通しは立っていません。

《大阪府精神科医療機関療養環境検討協議会》

療養環境サポーター活動について検討する大阪府精神科医療機関療養環境検討協議会は2か月に1回開催され、2021年度はオンラインと現地のハイブリッド形式で開催されました。当センターから2名の委員が参加しました。

日時	2021年5月21日・7月16日・9月17日・11月19日 14:00～17:00 2022年1月28日・3月11日 14:00～17:00
会場	大阪府こころの健康総合センター（大阪市東住吉区） オンラインとのハイブリッド形式
構成機関等	大阪精神科病院協会／大阪精神科診療所協会／日本精神科看護協会大阪府支部 ／大阪精神保健福祉士協会／大阪弁護士会／大阪精神医療人権センター／大阪 精神障害者連絡会／大阪府精神障害者家族会連合会(だいかれん)／大阪府社会 福祉協議会／大阪府保健所長会／大阪府（健康医療部保健医療室地域保健課及 び大阪府こころの健康総合センター）／大阪市（大阪市こころの健康センタ ー）／堺市（健康部精神保健課及び堺市こころの健康センター）／学識経験者
検討内容	①訪問活動で各病院に伝えた「検討をお願いしたいこと」の整理 ②上記①の検討結果についての病院へのフィードバック方法 ③各病院へのアンケート案 ④阪本病院の虐待事件

(2) 観察法病棟訪問

この活動では、法律専門職である弁護士と当センターの職員が連携、協力して、入院中の方と面会し、当センターが長年蓄積してきたノウハウや情報を提供し、相談を受けるとともに、法的観点からの助言を行ってきましたが、2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できませんでした。

2 630調査

(1) 大阪府に対する情報公開請求

2021年度の630調査について、大阪府知事に対する情報公開請求により大阪府内（大阪市・堺市含む）全ての精神科病床のある医療機関についての情報が開示されました。

(2) 他団体との取り組み

大阪以外の地域（埼玉県、さいたま市、神奈川県、横浜市、京都市、静岡県、福島県、北海道等）で630調査が開示されていないことについて、情報共有や意見交換のために会議や勉強会を共催で開催しました。

日時	参加者	内容
2021年7月19日(月) 毎回19:00～21:00	精神医療人権センター（東京・埼玉・神奈川・大阪・兵庫）	情報共有・今後の進め方についての意見交換
2021年8月31日(火) 10月 1日(金) 11月 8日(月)	・精神医療人権センター（東京・埼玉・神奈川・大阪・兵庫） ・630調査に取り組む個人・団体（北海道・静岡・奈良・京都）	630調査の公開状況やその取り組みについての情報共有と意見交換
2022年 1月27日(木)		勉強会「630調査と情報公開」講師 三木由紀子さん（情報公開クリアリングハウス）

第4 「社会をかえる」活動の内容

1 権利擁護システム研究会（オンライン）

本研究会は2017年から開始し、精神医療保健福祉に関する様々なことごとについて、現状や課題を整理したうえで、「解決するにはどうすればよいか」を具体的な形にしています。2021年度は2021年度のうちに意見書をまとめる短期目標の会合と、2022年度以降の意見書作成に役立てる中期目標の会合を組み合わせ進めました。

短期計画のテーマについては担当者を募り、2022年度中の公開を目指して意見書作成を行っています。

(1) 短期目標の研究会／精神科病院における虐待防止

ファシリテーター 竹端寛（運営会員・兵庫県立大学）

	開催日時	テーマ・内容	参加者 参加費
第1回	2021年8月21日(土) 14:00~16:00	虐待防止法の仕組みと課題 福島健太さん（弁護士）	25名
第2回	2021年10月23日(土) 14:30~16:30	行政によるチェックの実情と課題（実地指導等） 太田順一郎さん （岡山市精神保健福祉センター所長）	割引 参加費 3000円
第3回	2021年12月18日(土) 14:00~16:00	精神医療審査会の機能の見直し 位田浩（代表・弁護士・元精神医療審査会委員）	一般 参加費 6000円
第4回	2022年2月27日(日) 14:00~16:00	意見書作成に向けてのまとめ	

(2) 中期目標の研究会 精神科病院における構造的な問題

ファシリテーター 竹端寛（運営会員・兵庫県立大学）

	日時	テーマ・内容	参加者 参加費
番外編 第1回	2021年9月26日(日) 14:00~16:00	精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム 藤井千代さん （国立精神・神経医療研究センター）	60名 1500円
番外編 第2回	2022年1月23日(日) 14:00~16:00	精神医療施策の動向 氏家憲章さん（元精神科病院看護師）	40名 1500円

2 権利擁護活動の拡充に向けて

(1) 厚生労働行政推進調査事業補助金（障害者政策総合研究事業）「地域精神保健医療福祉体制の機能強化を推進する政策研究」精神障害者の意思決定及び意思表示支援に関する研究

個別相談検討チームの彼谷哲志が研究協力者、理事の原昌平、事務局長上坂紗絵子がオブザーバーとして参加し、大阪でのこれまでの実践をもとに精神科アドボケート養成講座のカリキュラム案や養成講座の内容を提案しました。

日時	2021年5月17日・7月23日、2022年1月7日(金) 19:00~20:30
検討内容	①精神科アドボケート養成講座（カリキュラム・内容） ②精神科アドボケートに関するアンケート案

(2) 地域で安心して暮らせる精神保健医療福祉体制の実現に向けた検討会

2021年10月に開始した厚生労働省の本検討会では、精神科入院者の権利擁護についての検討も行われており、2022年3月3日第6回検討会において、参考人として位田浩（代表）、彼谷哲志（個別相談検討チーム）が個別相談活動を中心に当センターの活動の紹介をしました。

(3) 精神科アドボケイト制度化についての意見交換会の実施（日本財団助成事業）

精神科アドボケイトの実現は、当センターだけでなく、多くの方々と議論を重ね、共に作り上げていくものです。大阪や各地の関係団体に参加を呼びかけ、精神科アドボケイトのあり方、事業の進め方、全国展開に向けた今後の取り組みについて、意見交換する場を持ちました。

日時 参加者	2021年 9月 3日(金)13:00~14:30 10名 9月16日(木)19:30~21:00 20名 9月19日(日)13:00~14:45 12名 10月 3日(日)13:00~15:00 8名
内容	参加者全員の自己紹介 精神科アドボケイト（指針案・モデル事業案）とその拡充の説明と意見交換 ファシリテーター 原昌平（理事）

(4) 全国検討チーム

2021年度に引き続き、ネットワーク構築・連携強化、精神医療人権センターの設立・活動開始の可能性とハードルを明らかにすること、入院中の方の権利擁護の拡充につなげることを目的に開催しました。各地の精神医療人権センターが集まり、電話相談や運営等についての情報交換を行い、入院者の権利擁護活動の拡充についての課題や対応について意見交換をしました。

開催方法 オンライン

参加者 毎回：神奈川・埼玉県・兵庫県・大阪精神医療人権センター

2回目のみ：東京精神医療人権センター

	日時	テーマ・内容	ファシリテーター
第1回	2021年 6月24日(木) 19:30~21:15	電話相談	西川健一 (個別相談検討チーム)
第2回	2021年 8月26日(木) 19:30~21:15	病院等との関係の持ち方	彼谷哲志 (個別相談検討チーム)
第3回	2021年10月25日(月) 19:30~21:15	全国検討チーム（2020年開始） の振り返り	角野太一 (個別相談検討チーム)
第4回	2021年12月13日(月) 19:30~21:15	運営	河合将生 (オフィスムスビメ)
第5回	2022年 2月24日(木) 19:30~21:15	まとめと今後について	藤原理枝（理事）

※日本財団助成事業

(5) シンポジウム・講演会の開催

テーマ	オンラインシンポジウム 精神科アドボケイトの実践と可能性：虐待防止と医療の質向上のために
日時	2021年7月31日(土)13:50～16:00
参加者	zoomミーティング 26名 YouTube視聴 215回（期間限定で公開）
参加費	ZOOMミーティングでの参加 1,000円/YouTube配信の視聴 無料
内容	<p>精神科病院でも入院中の方の人権がまもられないといけないことは当たり前のことですが、神出病院での虐待事件に限らず、当センターに寄せられる相談からしても、入院中の方の権利がまもられる仕組みが整っているとはいえません。大阪でこれまで行ってきた「精神科アドボケイト」（精神科病院に入院中の方への権利擁護活動）は全国に必要です。大阪での活動も制度化され、さらに充実させる必要があります。</p> <p>私たちは、多くの方にこの活動を知ってもらいたい、入院中の方やご家族から利用してもらいたい、いろいろな方にご参加いただきたい、ご協力いただきたい、拡げていきたいと考え、精神科アドボケイトの実践と可能性を発信するための講演会を開催しました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 制度化に向けて 原昌平（当センター理事） 2 入院していた方より～精神科アドボケイトを利用して～ 3 面会活動に参加して 中北清さん（精神科アドボケイト） 4 病院の立場より 長尾喜一郎さん（ねや川サナトリウム理事長） 5 大切にしていること 山本深雪（当センター副代表） コーディネーター 竹端寛（運営会員 兵庫県立大学）
参加者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪人権センターのような活動が全国にあれば良いかと、ずっと思っていました。患者さんの話をきちんと聴きたいけれど十分な時間が継続して確保できない、組織を良くしたいけれど自浄作用には期待できそうにない、という現場は多いと思います。精神科アドボケイトが制度化されれば、入院中の方はもちろん、従事者（特にワーカー）も心強いと思います。どんな風に協働できるかは大阪をお手本にすれば良いし、各地で実情に合わせて進められると考えます。 ・精神科医療をよりよくしていこうとするさまざまな働きのなかの一つに当事者の権利擁護に取り組むという視点があるのかなと感じました。障害当事者の方々の声をもっと耳を傾けて拾っていくということは本当に大切だと思います。しかし、精神科医療に携わるスタッフで当事者の方の声に耳を傾けるということは当たり前ではないのもみなさんをご存知のことだと思います。さまざまな働きかけがあり、彼らの意思が尊重される社会になることを心から願います。 ・相手（病院側）の立場を尊重しながら、言うべきことを言う。すべての対人援助に通じる手法ですね。訪問活動に参加したいと思いました。

テーマ	オンライン講演会 みんなを困らせる今の仕組み～精神医療のあり方、治療文化を問い直す～
日時	2021年11月28日(日) 14:00～16:00
参加者	zoomミーティング・ウェビナー 107名
参加費	1000円（視聴のみ）／2500円（アフタートークあり） ※割引参加者あり
内容	当センターには、入院中の方だけでなく、家族、そして病院に勤務している方、勤務していた方からの相談もあります。背景には、本人と家族、本人と医療スタッフの間に対立関係を生んでしまう「治療文化」「構造的な問題」があるようです。入院中の方が苦しんでいるのに加え、この構造に巻き込まれている家族や精神医療従事者の中にも、苦しんでいる人が多いのではないのでしょうか。関係性と構造的な問題を変えるために一緒に考える講演会をオンラインで開催しました。 講師 くるみざわしんさん（精神科医・劇作家） 発言 大橋聖子さん（入院経験のある精神医療ユーザー） 貝田博之さん（元精神科病院職員 精神科認定看護師） コーディネーター 竹端寛（運営会員 兵庫県立大学）
後援	DP 日本会議、日本障害者協議会、全国精神保健福祉会連合会、地域精神保健福祉機構、全国精神障害者地域生活支援協議会、日本精神保健福祉士協会、日本精神神経科診療所協会、大阪精神障害者連絡会、大阪府精神障害者家族会連合会、大阪精神科病院協会、大阪精神科診療所協会、大阪精神保健福祉士協会、大阪弁護士会、近畿弁護士会連合会、神奈川精神医療人権センター、埼玉県精神医療人権センター、東京精神医療人権センター、兵庫県精神医療人権センター
参加者の声	<ul style="list-style-type: none"> 精神科医療の根底にある変わらないものをどうやったら変えられるのか、真剣に考える時間でした。制度政策的転換によって、入院治療の短縮化がもたらした弊害、手間をかけない医療によって、傷つく患者さんがいることも知りました。誰のための入院治療なのか、医療現場で働く立場にとっては、目の前の患者さんに真摯に向き合うことを、ひたすらに続けていきたいと思いました。 精神看護師として自分の思いを患者にどのように伝えていったらいいかわからず、古い風習に縛られて、患者を見て見ぬふりをしなければならず、そんな自分が嫌で病院を辞めようかなと考えてました。尊厳をもって傾聴し、共感する、私がやれることから実践していくこと、そして、同じ思いを持つ同志との出会いを大切にしていきたいと思いました。今後もセミナーや公演に参加して意見交換をしたいと思います。

※日本財団助成事業

(6) 日本財団2020年度助成事業報告書の作成

タイトル	各地の精神医療人権センターの実践から考える ～新規設立のための4つの先行事例～
------	--

内容	2020年11月28日シンポジウム「各地の精神医療人権センターの実践から考える～いま私たちができること～」報告 精神科に入院中の方のための権利擁護調査事業（アンケート・インタビュー）報告
頒価	500円（完売／ホームページから無料ダウンロード可能）
発行	2021年8月31日

※日本財団助成事業

(7) 権利擁護センターの立上げ・運用スキームに関するサポートの提供

ア 視察対応

2021年 7月21日 神奈川精神医療人権センター1名
代表との面談・面会と病院見学の同行・退院した方へのインタビュー同席
2021年10月18日 神奈川精神医療人権センター1名
面会と病院院長との面談への同席

イ 視察・交流会の実施（横浜市）

2021年8月10日 神奈川精神医療人権センター参加者・関係団体と実施
2021年8月11日 神奈川・埼玉県精神医療人権センターと実施

ウ 神奈川精神医療人権センターと助成事業打ち合わせ・進捗等情報共有（オンライン）

※日本財団助成事業

3 神出病院事件・医療観察法についての取り組み

共催企画と情報発信を行いました。

(1) 神出病院の集団虐待事件について

テーマ	院内集会 神出病院事件を繰り返さない—虐待事件の政策的解決に向けて
日時	2021年5月11日(火)11:30~13:00
会場	衆議院第一議員会館多目的ホール（東京都千代田区） オンラインとのハイブリッド形式
参加者	200名（来場参加80名、オンライン参加120名）
参加費	無料
内容	神戸市の精神科「神出病院」で元看護師ら6人が昨年、有罪となった患者虐待事件を受け、障害者虐待防止法の対象に精神科病院を加えるといった対策を取るよう、参加した国会議員らに求めました。 【基調報告】 ・長谷川利夫（杏林大学）／桐原尚之（全国「精神病」者集団） 【特別発言】 ・吉田明彦（兵庫県精神医療人権センター） ・小山聡子（日本女子大学） ・窪田澄夫（日本精神科看護協会） ・山本深雪（大阪精神医療人権センター）

共催	神奈川精神医療人権センター、埼玉県精神医療人権センター、東京精神医療人権センター、兵庫県精神医療人権センター、認定NPO法人大阪精神医療人権センター、大阪精神障害者連絡会、NPO法人横浜市精神障害者地域生活支援連合会、精神障害当事者会ポルケ、NPO法人こーらるたいとう、全国「精神病」者集団、NPO法人日本自立生活センター、認定NPO法人DPI日本会議
後援	NPO法人全国精神障害者団体連合会、NPO法人全国精神障害者地域生活支援協議会、認定NPO法人地域精神保健福祉機構、一般社団法人日本精神科看護協会、公益社団法人全国精神保健福祉会連合会、日本障害フォーラム、認定NPO法人日本障害者協議会、日本弁護士連合会、公益社団法人日本精神保健福祉士協会

※事件概要

2020年3月に神戸市西区にある精神科病院・神出病院において複数の入院者に対する重大な虐待事件が発覚し、看護師ら6人が逮捕され、有罪判決を受けた。同病院では以前から虐待が常態化し、これに気付いている職員がいたにもかかわらず、これまで外部に伝わることはなかった。

(2) 医療観察法を廃止しよう全国集会！

＜共同呼びかけ＞

心神喪失者等医療観察法をなくす会

国立武蔵病院(精神)強制・隔離入院施設問題を考える会

認定NPO法人大阪精神医療人権センター

心神喪失者等医療観察法(予防拘禁法)を許すな！ネットワーク

日時	2021年7月18日(日)13:30~16:00
会場	中野区産業振興センター地下1階 多目的ホール(東京都中野区) オンラインとのハイブリッド形式
参加者	123名 (来場参加53名、オンライン参加70名)
参加費	500円
内容	精神医療国家賠償請求訴訟の現段階と課題～ 第一次提訴の意味と位置～ 講師 古屋龍太さん(精神医療国家賠償請求訴訟研究会副代表・事務局長、 日本社会事業大学大学院福祉マネジメント研究科教授) 報告：刑法・少年法改悪反対の取り組み 山口創一さん(刑法・少年法改悪に異議あり！緊急アクション) 京都洛南病院の指定入院医療機関建設阻止の取り組み 桐原尚之さん(全国「精神病」者集団) 神出病院事件の患者虐待に関する取り組み 吉田明彦さん(兵庫県精神医療人権センター) 発言：医療観察法元当事者 他

日時	2021年11月23日(火・祝)13:30~16:00
会場	南部労政会館第5・6会議室(東京都品川区)

	オンラインとのハイブリッド形式
参加者	97名（来場参加54名、オンライン参加43名）
参加費	500円
内容	<p>コロナがあぶり出した日本の精神医療</p> <p>講師 青山浩平さん NHKディレクター</p> <p>報告：精神科病院での新型コロナ感染問題、厚労省交渉報告 有我譲慶（大阪精神医療人権センター） 神出病院の患者虐待事件に関する取り組み 吉田明彦さん（兵庫県精神医療人権センター）</p> <p>発言：医療観察法元当事者 他</p>

4 調査事業

調査名	精神科に入院中の方のための権利擁護に関する調査
目的	<p>①全国における精神科入院者のための権利擁護活動・事業の現状と課題の整理</p> <p>②権利擁護団体間のネットワーク構築と各活動の充実</p>
内容	精神科入院者の権利擁護活動・事業に関わる機関・団体に対するアンケートとインタビュー
期間	2020年10月～2021年8月
掲載	日本財団報告書「各地の精神医療人権センターの実践から考える」

※日本財団助成事業

5 寄稿・講師派遣・取材対応等

(1) 寄稿・掲載

発行日	雑誌名	出版社	タイトル	執筆	URL
2021年 4月1日	あみ[ami]No.8 1 特集「精神科長期入院」	特定非営利活動 法人全国精神障 害者地域生活支 援協議会	長期入院の方 からの声と当セン ターの実践報告	関口	https://www.ami.or.jp/newsletter
2021年 4月9日	月刊みんなねっと 2 021年4月号 特集「神出病院事件 から」	公益社団法人 全国精神保健福 祉会	「神出病院事件 を受けて一虐待 を防ぐ権利擁護 の仕組みが必要 ー」	有我	https://seishinoken.jp/magazines/611c56ec4d57dc67f12ef71c15678f52513433a2
2021年 7月21日	精神医療No.2 2021 特集 精神科医療に おける権利擁護 ア ドボケイト	エム・シー・ミ ューズ	【座談会】精神 科医療における 権利擁護（アド ボケイト）	彼谷	https://www.molcom.jp/products/detail/146467/

2021年 10月20日	精神医療No.3 2021 特集 精神医療国家 賠償請求訴訟—その 背景と現段階—	エム・シー・ミ ューズ	【リレー連載】 精神医療人権セ ンターから 〈3〉大阪精神 医療人権センタ ーから	藤原	https://www.molcom.jp/products/detail/147954/
2021年 10月20日	精神医療No.3 2021 特集 精神医療国家 賠償請求訴訟—その 背景と現段階—	エム・シー・ミ ューズ	【特集】 尊厳な き精神医療政策 が生む人生被害	有我	https://www.molcom.jp/products/detail/147954/

(2) 講師派遣

開催日	テーマ・内容	主催	対応
2021年 9月10日	個別相談活動・訪問活動についての説明	西宮市精神障害者地域移行 推進事業推進会議/NPO法 人ハートフル（西宮市）	上坂
2021年 11月4日	ピアサポーター研修	大阪市こころの健康センタ ー（大阪市）	山本
2021年 12月9日	交流会「入院中の方の権利擁護のしくみについて」	社会福祉法人ふらっぴ 地域生活支援センターあー ず（大東市）	山本
2021年 12月16日	職員研修「大阪精神医療人権センターの取 り組みの紹介」	湊川病院（神戸市）	藤原 川口
2022年 3月25日	職員研修「ピアサポーターの活動の意義や 活動するうえでの葛藤、活動の範囲、今後 の展開」	社会福祉法人なごみ福祉会 （堺市）	山本

(3) 取材対応

掲載日	掲載誌	内容	対応	URL
2021年 4月15日	東洋経済オンライン	神戸・神出病院、凄惨な虐待 事件から見た難題	有我	https://toyokeizai.net/articles/-/422240
2022年 2月1日	共同通信	精神科入院「苦しさ聞かせて」初の 一斉電話相談、5都府県で一コ ロナで面会、訪問制限	藤村	https://www.jiji.com/jc/article?k=2022013100556&g=soc
2023年 3月28日	朝日新聞	朝日新聞 病院で認知症患者 虐待か 大阪の精神科、性的 虐待・乱暴な対応	山本	https://www.asahi.com/articles/DA3S15249703.html

6 国や自治体、他機関の会議等への参加

- (1) 厚生労働行政推進調査事業補助金（障害者政策総合研究事業）「地域精神保健医療福祉体制の機能強化を推進する政策研究」精神障害者の意思決定及び意思表示支援に関する研究
- (2) 大阪府精神科医療機関療養環境検討協議会
- (3) 堺市精神保健福祉審議会
- (4) 大阪府社会福祉協議会運営適正化委員会
- (5) 大阪府社会福祉協議会権利擁護推進運営協議会

7 情報発信

(1) 人権センターニュース・メルマガの発行 別紙3

(2) ホームページ

①「よくあるご質問」ページの作成

②各精神医療人権センターの紹介・20年度シンポジウム報告

※日本財団助成事業

③活動参加者の声（コミュニティオーガナイズ・ソーシャルアクション）

※SOMPO福祉財団「NPO組織基盤強化助成」

(3) SNS（Facebook・YouTubeチャンネル・note）

活動参加者の声（コミュニティオーガナイズ・ソーシャルアクション）

※SOMPO福祉財団「NPO組織基盤強化助成」

第5 活動の充実・強化に向けて

活動の継続や充実に向けては組織基盤の強化が必要であり、2021年度は以下のことに取り組みました。

1 組織基盤の強化

2020年度にPanasonic助成事業で実施した組織診断結果をもとに、(1)組織一体となった運営・マネジメント」に向けて、中長期計画意見交換会（2021年9月14日）、運営にかかわる主要な会議の目的の明確化（理事会・プロジェクト会議・運営会議の実施）、(2)事務局機能の強化・役割の見直し、理事会・活動参加者と事務局の役割を見直し、事務局機能を強化しました。(3)組織内コミュニケーションの強化として「活動参加者交流会」を実施しました。

活動参加者オンライン交流会 各回約1時間半／進行 西尾一平さん・倉田孝之さん

日時	内容
2021年 5月18日(日)13:00～	グループに分かれて意見交換
2021年 6月18日(金)21:00～	コロナと精神科病院
2021年 7月25日(日)13:00～	グループに分かれて意見交換
2021年 8月20日(金)21:00～	グループに分かれて意見交換
2021年 9月19日(日)13:00～	精神科アドボケイトについての意見交換 原昌平（理事）
2021年10月15日(金)21:00～	グループに分かれて意見交換

2021年11月21日(日)13:00～	活動に参加し始めた理由
2021年12月18日(金)21:00～	グループに分かれて意見交換
2022年 1月16日(日)13:00～	日弁連決議（精神障害のある人の尊厳の確立を求める決議）・代理人活動 東奈央（運営会員）
2022年 2月18日(金)21:00～	わかりやすい文章の書き方 原昌平（理事）
2022年 3月20日(金)13:00～	活動への参加理由・訪問活動 山本深雪（副代表）

2 活動参加者を募集するためのリーフレットと動画の作成

※SOMPO福祉財団「NPO組織基盤強化助成」

第6 その他の事業

実施していない

第7 社員総会の開催状況（定時総会・臨時総会） 別紙4

第8 理事会の開催状況 別紙5

以 上

2021年度電話相談内容

（※複数選択あり）

		2021年度	2020年度
(1) 面会・手紙・報告	1 相談ののってもらっていることについて進展があった・解決し	30	30
	2 面会に来てほしい	51	84
	3 面会のお礼	5	8
	4 手紙がほしい	57	47
	5 手紙のお礼	19	11
	6 退院した	8	11
	7 面会調整	97	20
(2) 退院したい	1 入院の必要性について説明がない・入院の理由に納得がいか	34	50
	2 退院についての話や説明・退院支援（相談・情報提供）がない	43	32
	3 入院形態の変更	8	9
	4 家族の反対で退院できない	12	18
	5 退院先がない	13	7
	6 退院先を選べない	7	4
	7 転院したい	26	15
	8 その他、退院したい	64	64
(3) 行動制限	1 隔離	40	40
	2 身体拘束	26	46
	3 外出制限	39	65
	4 面会制限	24	36
	5 通信制限	20	17
(4) 入院生活	1 病気・治療・薬	51	48
	2 他科受診	4	9
	3 私物管理	17	5
	4 金銭管理	20	13
	5 食事・おやつ	22	25
	6 喫煙	6	5
	7 使役	0	1
	8 他患との関係・トラブル	8	8
	9 入院費・保険外費用	8	5
(5) 職員の接遇	1 暴力	12	10
	2 暴言	16	25
	3 無視・放置	22	9
	4 対応がおそい	14	6
	5 審査会等への相談により不当な対応	0	5
	6 不適切な対応	37	57
6) 退院後の生活に不安があ	1 住む場	17	23
	2 収入	2	1
	3 家事	1	0
	4 就労・居場所	3	4
	5 金銭管理	9	2
	6 服薬管理	4	3
	7 家族関係	14	10
	8 その他	27	12
(7) 知りたいことがある	1 入院の種類や要件	5	22
	2 精神医療審査会	14	21
	3 社会資源	13	13
	4 当センターの相談受付内容	13	20
	5 当センターの活動内容	8	28
	6 他の相談窓口	42	69
	7 その他	83	86
(8) その他	1 話をきいてほしい	99	203
件数	電話件数	776	830

2021年度 面会活動の実施状況

面会者の実人数 21 名

入院形態別面会者数

任意入院者数	6	名
医療保護入院者数	10	名
未確認入院者	5	
	21	名

希望・相談内容（複数選択あり）

退院	15	名
外出	8	名
隔離	2	名
身体拘束	1	名
私物・金銭の管理	2	名
転院	1	名
面会に来てほしい	1	名
入院形態	3	名
職員の接遇	2	名
家族関係	1	名

経過・結果（2021年3月末時点）

終了	1	名
退院	5	名
継続	15	名
		名

対応（複数選択あり）

ひまわりの紹介	3	名
弁護士からの同行依頼	1	名
弁護士当センターどちらにも相談同行で面会	3	名
PSWに連絡・質問・面談	3	名
医師や看護師に連絡・質問・面談	2	名
PSWが（以前より）かわりはじめた	2	名
退院した	5	名
処遇改善・希望の実現	4	名

面会回数別面会者数（2022年3月末時点）

0回	0	名
1回	11	名
2回	2	名
3回	4	名
4回	1	名
5回	2	名
12回	1	名
	21	名

面会に行っても面会できなかった	1	回
オンライン面会を調整したができなかった	4	回
主治医に判断によるキャンセル	3	回
当日職員が対応できなかった	1	回

年度内の面会回数が1回の面会者の内訳

継続	8	名
退院終了	3	名
	11	名

面会者が入院中の病院数

9 病院

病院所在地域別面会者のべ人数

大阪府下（北摂）	4	名
大阪府下（河内）	3	名
大阪府下（泉州）	14	名
大阪市	0	名
堺市	0	名
	21	名

2021年度 面会活動の実施状況

	面会件数			面会件数合計 (延べ)	新規面会者数(名)
	実地面会	オンライン面会	事業オンライン面会		
4月	0	0	1	1	0
5月	0	0	1	1	1
6月	3	0	4	7	2
7月	3	0	3	6	3
8月	1	0	3	4	0
9月	1	0	2	3	1
10月	4	0	3	7	1
11月	2	0	0	2	1
12月	6	1	4	11	3
1月	2	0	2	4	1
2月	1	0	4	5	0
3月	1	0	2	3	0
合計	24	1	29	54	13

2021年度人権センターニュース

人権センターニュース157精神科アドボケイトってなに？(2021年4月号)

- ▽退院した方の声～大阪精神医療人権センターに連絡した理由～
- ▽精神科アドボケイトとして病院に行く理由
- ▼『精神科アドボケイト』とは～大阪精神医療人権センターの活動参加者の声・実際の活動より～
- ▼大阪精神医療人権センターが提案する『精神科アドボケイト』とは Q&A
- ▼精神科アドボケイト実境のロードマップ/原 昌平（ジャーナリスト、精神保健福祉士、行政書士）
- ▼精神科アドボケイトについての議論の経過
- ▼訪問活動の「検討の場」にかかわって/菅野 治子さん・しのめハウス
- ▼療養環境サポーター報告 渡辺病院
- ▼神出病院神出病院の集団虐待事件について～虐待を防ぐしくみ・権利擁護システムの確立を～
- ▼入院者の声

人権センターニュース158 2020年度事業報告(2021年6月号)

人権センターニュース 2021年8月号としては以下の冊子をお送りしました。

冊子 | 各地の精神医療人権センターの実践から考えるー精神医療人権センター新規設立先行事例集

人権センターニュース159コロナ禍での取り組み～不要不急緊急で必要なこと～(2021年10月号)

- ▽精神科病院と新型コロナウイルス感染症について
- ▽新型コロナウイルス感染症の中での活動報告
 - 電話相談/面会活動/オンライン面会/
 - 療養環境サポーター活動/権利擁護システム研究会
- ▼ご報告/2021年7月31日オンラインシンポジウム
 - 精神科アドボケイトの実践と可能性～虐待防止と医療の質向上のために～
- ▽制度化に向けて/原昌平（ジャーナリスト 理事）
- ▽精神科アドボケイトを利用して/三矢さん（入院経験者）
- ▽面会活動に参加して/中北清さん（精神科アドボケイト）
- ▽精神科病院と療養環境サポーター/長尾喜一郎さん（大阪精神科病院協会会長・ねや川サナトリウム理事長）
- ▽大切にしていること/山本深雪（副代表）
- ▼入院者の声

人権センターニュース160【ご報告】みんなを困らせる今の仕組み(2021年12月号)

- ▼【ご報告】大阪精神医療人権センター設立36周年記念講演会
- みんなを困らせる今の仕組み
 - ～精神医療のあり方、治療文化を問い直す～
 - 治療文化を問い直す/くるみざわしん（劇作家・精神科医）
 - 身体拘束の体験について・精神医療ユーザーとしての想い、自分への諦め/大橋聖子
 - 精神科病院での「看護」について思うこと～あきらめないでいるために～/貝田博之（精神科認定看護師）
- ▼家族としての思い
 - 大阪精神医療人権センターの活動に参加している理由
 - 家族に会いに行くように
 - みんなのために、自分のために
 - 思いを社会に伝えたい
 - 妹から教えてもらった世界
 - 精神医療をよくしたい思い
- ▼全国一斉電話相談のご報告（速報）
- ▼入院中の方の声

人権センターニュース 2022年2月号は2022年4月号と合併して発行予定です。

2021年度 社員総会の開催状況

(1) 第22回定時総会

日時	2021年5月29日(土) 13:00~15:00
場所	大阪市北区西天満5-9-5 谷山ビル9階 大阪精神医療人権センター&つぐみ法律事務所
参加者	双方向による対話可能な形式でWEB開催(ZOOM) 運営会員総数 23名 出席運営会員数 20名(うち13名がWEB出席、7名が委任状出席)
内容	第1号議案 2020年度事業報告書承認の件 第2号議案 2020年度事業会計活動計算書 (財産目録、貸借対照表財務諸表の注記を含む)承認の件 第3号議案 2021年度事業計画承認の件 第4号議案 2021年度事業会計活動予算書承認の件 第5号議案 新役員選任の件 第6号議案 定款の一部変更承認の件

(2) 臨時総会

日時	2021年8月25日(水) 18:30~18:50
場所	大阪市北区西天満5-9-5 谷山ビル9階 大阪精神医療人権センター&つぐみ法律事務所
参加者	双方向による対話可能な形式でWEB開催(ZOOM) 運営会員総数 23名 出席運営会員数 20名(うち16名がWEB出席、4名が委任状出席)
内容	第1号議案 2022年度事業計画書案承認の件 第2号議案 2022年度事業会計活動予算書承認の件

※定款の一部変更のために2年分の事業計画が必要となったため開催した。

2021年度 理事会の開催状況

日時	2021年	4月28日(水)	18:30~20:30
		5月28日(水)	18:30~20:30
		7月28日(水)	18:30~20:30
		8月25日(水)	18:30~20:30
		9月22日(水)	18:30~20:30
		10月27日(水)	18:30~20:30
		11月24日(水)	18:30~20:30
		12月22日(水)	18:30~20:30
		2022年	1月26日(水)
	2月23日(水)		18:30~20:30
	3月23日(水)		18:30~19:20

方法 オンライン (ZOOM)

内容 定時総会・臨時総会の議案の検討
個別相談活動／訪問活動／政策提言についての報告と検討
財務状況の情報共有
支援者に向けた取組みの検討

2021年度 理事会の開催状況

開催日	主要活動	事業・予算・運営	助成関係
2021年 4月28日(水)		定時総会の議案の検討	
5月28日(水)		定時総会の議案の検討	
7月28日(水)	精神科アドボケート【検討】		日本財団進め方・申請
8月25日(水)		臨時総会議案の検討	
9月22日(水)		中長期計画について	Panasonic申請
10月27日(水)	政策提言・630調査【検討】 ・今後の活動について	年度前半事業進捗 年度前半収支報告	日本財団申請
11月24日(水)	政策提言・630調査【審議】 ・今後の活動計画		
12月22日(水)	個別相談【検討】 ・今後の活動について		
2022年 1月26日(水)	個別相談【審議】 ・今後の活動計画	新年度の新役員検討 21年度事業進捗 21年度の収支報告 22年度事業計画第1案 22年度予算第1案	
2月23日(水)	訪問活動【検討】 ・今後の活動について		Panasonic助成事業 運営会議(仮)開催について
3月23日(水)	訪問活動【審議】 ・今後の活動計画	21年度事業報告案 21年度決算見込 22年度事業計画案 22年度予算案	Panasonic助成事業 運営会議(仮)開催について

※開催方法 双方向による対話可能な形式でWEB開催(ZOOM)

※18:30~21:00